

宮川の風 第76号

平成31年2月15日（金）発行
宮川小学校校長室からのたより

学校では、一番早く出勤するのは教頭先生です。校舎の鍵を開けながら、同時に、窓ガラスの破損やその他の異常がないかを点検します。子どもたちが、安全に学習できる環境であるかを毎朝確認して、7時30分に子どもたちを迎え入れます。そして、子どもたちも職員も帰宅し、誰もいなくなった校舎に鍵をかけて一日の仕事が終わります。

どの職場でも、どんな場所でも、このように人より前に準備をしてくれる人がいるのです。多くの場合、このようなことは目につきにくく、日常の中で「当たり前のこと」として流されていきます。一番感謝されるべきことなのですが。

裏面の記事をお読みください。

「雪かき仕事」をできる子どもたちに育てたいと思っています。損得だけで考えると、「雪かき仕事」は生まれません。「なんで自分がしなきゃいけないの?」とか、「他の人はやっていないのに、ずるい」などという気持ちが出てしまうのできなことです。そんなことを超越した気持ちがなくてはなりません。

特に、高学年である5・6年生には、そんな気持ちが求められます。下学年の子どもたちのお手本としての姿を身に付けさせることで、その子自身の成長と思いやりのある学校の雰囲気をつくっていくことが期待されます。何かと責任の重い高学年ですが、頑張してほしいと思います。

卒業式の練習が本格化していきます。6年生は、練習を重ねる中で少しずつ‘卒業’を意識し、小学校生活を振り返る時間が多くなることでしょう。そして、中学校生活への不安と期待がますます大きくなっていくと思います。そんな6年生が気持ちよく卒業できるように、職員全員と在校生全員が、心からのお祝いのお場を準備してあげなくてはなりません。在校生のトップである5年生には、自然と期待がかかってくるこの時期です。

図書紹介

前回の「宮川の風」で、「世界の果ての通学路」を紹介しました。その後、学校図書館司書から、図書室にある本について紹介してもらいました。

「世界に生きる子どもたち

すごいね!みんなの通学路

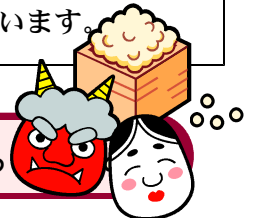
「ぼくたちは、なぜ学校へ行くのか」

の2冊です。

「ぼくたちは、なぜ学校へ行くのか」は、武装勢力のメンバーに銃で頭を打たれたものの、奇跡的に回復し、その後、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの言葉も記されています。

ぜひとも、親子で読んでほしいと思います。図書室で貸出を行っています。

ある日のできごとから



学校ホームページのブログにもありますように、今、校舎内にはたくさんの‘鬼’が掲示されています。節分に合わせて、子どもたちが自分の中にある鬼を退治するために作られたものです。

なきむし鬼や忘れもの鬼、おこりんぼう鬼、ねぼう鬼、ゲーム鬼など、さまざまです。節分の豆を食べながら、鬼退治を誓ったはずですが、少しは鬼が退散したのでしょうか。

登校の様子を見ていると、以前は8時ぎりぎりに登校していた子が、最近では余裕をもって登校するようになったケースがあります。また、以前は遅くなって8時に間に合わないような状況でも、自分のペースでゆっくりと歩いていた子が、最近では小走りで急ぐ様子を見せてくれるようになったケースもあります。それぞれ、自分の中の‘鬼’を退治したのかもしれませんが。

世の中悪い鬼ばかりではないと思いますが、宮川小のたくさんの鬼たちが笑顔の鬼になれることを祈ります。

みなさんの心の中には何鬼がいますか?

(文責: 鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二)